

学会で一週間ほど日本を離れ、自宅に帰ると、趣味で大切に育ててきたミツバチが姿を消していた。巣箱に女王蜂と卵を残したまま。

四年前のことだ。ミツバチの群れがこのように突如崩壊することを「蜂群崩壊症候群（CCD）」という。当時、原因はウイルスかダニと考えられていたが、カメムシなどを駆除するネオニコチノイド系農薬が、ミツバチの帰巢本能を壊してしまふとの説を知り、確かめたくなった。

この人



金沢大理工研究域の教授で、液晶画面に使うフイルムなどを研究する高分子化学が専門。畑違いの研究に取り組んだのは研究者魂もあるが、友人に蜂蜜のお裾分けをする楽しさを奪われた悔しさからだった。実験は二〇歳。

「人への影響もないとはいえない。生態系の崩壊につながりかねない」。休日返上で妻和子さんと一緒に研究を続ける。金沢市在住、六十四歳。

(兼村優希)

一〇年夏にスタート。自前の施設でCCDが起きることを確認した。

欧州では一九九九年ごろからこの農薬の使用を制限し始めたものの、日本では規制が一向に進まない。「国内で生産される農薬の銘柄が多いから二の足を踏んでいるのでは」と危ぶむ。

1425
7/12
14日